

令和6年度家畜共同育成場指定管理者評価委員会による評価結果

1 開催日時

令和6年8月1日（木） 午後1時00分から午後4時30分まで

2 指定管理者

公益社団法人静岡県畜産協会

3 指定管理期間及び評価対象期間

(1) 指定期間 令和4年4月1日 ～ 令和9年3月31日

(2) 評価対象期間 令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日（年度評価）

4 評価委員（委員長：○印）

区分	氏名（敬称略）	所属・役職
学識経験者	○梨木 守	一般社団法人日本草地畜産種子協会 放牧アドバイザー
財務会計の専門家	土田 卓也	財務コンサルティング事務所 Con. T 代表
利用者代表	中野 学	富士伊豆農業協同組合 組合員
利用者代表	野本 典子	浜名酪農業協同組合 組合員

5 評価の基準

(1) 評価項目及び評価の視点

評価項目	評価の視点
1 施設の利用状況	・預託推進や預託牛の発育向上を図るなど、設置目的である「家畜資源の確保及び畜産経営の改善」に沿った運営が行われているか ・施設の利用目標が達成されているか
2 公の施設としての適切な運営	・環境及び家畜衛生、他関係法令等を遵守した運営が行われているか ・利用者間において公平な取扱いをしているか
3 収支計画及び実績	・予算執行の状況は適切か
4 利用料金の設定	・収支を鑑み、利用料金の設定は適切か
5 管理経費削減の取組	・効率的な運営を行い、管理経費の削減に努めているか
6 職員の人員配置、職員教育の状況	・責任ある管理運営が可能な職員数を確保し、配置しているか ・労働安全の確保、育成牛の管理、草地及び施設の維持管理に必要な教育・訓練等を行っているか
7 危機管理体制の構築 (労働安全の確保、災害等緊急時の対応)	・職員や預託牛の事故防止策が講じられているか ・事故や災害発生時の連絡体制、職員や預託牛の安全確保、応急措置など、適切な対応が取られる体制が整備されているか
8 育成牛の管理状況	・育成牛の適切な飼養管理及び繁殖管理が行われているか ・飼養衛生管理基準による疾病感染の予防・対策が講じられているか
9 草地の維持管理状況	・草地の適切な維持管理が行われているか
10 施設等の維持管理状況	・施設・車両・農機具等の適切な維持管理が行われているか
11 地域社会との協調及び 県の事業、試験研究に対する協力	・周辺の自治体や住民団体等と協調し、連携しているか ・県畜産技術研究所が行う放牧技術や受精卵移植技術に関する研究等に協力しているか
12 畜産農家の利便性向上の取組	・畜産農家の利用しやすさに配慮した取組がなされているか
13 畜産農家の視点に立った業務の改善や 新たな事業展開	・畜産農家のニーズをつかみ、それを踏まえた問題点の解決や新たな試みが実施されているか
14 要改善事項に対する改善状況	・前回(当期)※の外部評価で指摘された要改善事項に対して、改善措置が講じられているか

※ 括弧内は期間評価の場合

(2) 評価項目ごとの配点の基準

配点	内容
4	大変評価できる
3	評価できる
2	どちらともいえない
1	余り評価できない
0	全く評価できない

(3) 総合評価

総合評価は、各委員の採点合計の平均点（小数点第2位以下は四捨五入し、小数点第1位まで求める。）に基づいて行う。評価区分は下記のとおり。

総合評価区分	得点率
優	総配点の87.5%以上
良	62.5～87.5%未満
可	50～62.5%未満
不可	50%未満

6 評価結果

年度評価

「優」：56点満点中、4人平均で51.5点

総配点 a	56点
評価点 b	51.5点
得点率 b/a	92%
総合評価	優

令和6年度静岡県家畜共同育成場指定管理者評価委員会 議事録

開催日 令和6年8月1日(木)

場所 静岡県家畜共同育成場(伊豆市湯ヶ島892-2)

1 開会

畜産振興課家畜防疫対策室長から開会の挨拶を行った。

2 評価方法の説明

事務局から委員に対し、評価方法について説明した。

また、本委員会の議事録及び採点結果は、要点のみの形式で発言者・評価者を特定せずに公表することを伝えた。

3 委員長の選任

静岡県家畜共同育成場指定管理者評価委員会設置要領第5条に基づく委員の互選により、梨木委員が委員長に選任された。

4 評価委員会

(1) 県からの報告(指定管理業務の概要説明)

事務局から、配付資料に基づき、指定管理者制度の概要及び業務の内容を説明した。

(2) 指定管理者からの報告(管理運営状況の報告)

配付資料に基づき、R5年度の管理運営状況を説明した。

(3) 現地視察

指定管理者が先導し、家畜共同育成場内の視察を行った。

(4) 質疑応答

(2)～(3)の内容について、委員からの質問について指定管理者が回答した。

(5) 意見交換及び評価

指定管理者は一時退室し、委員間での意見交換を行った。

その後、評価(評価表への記入)に移った。

(6) 集計

事務局が、各委員の評価表(採点シート)を回収し集計を行った。

結果については、年度評価において 51.5 点で総合評価「優」であったと報告した。

(7) 講評

委員長から県及び指定管理者に対して、講評を行った。

<評価できる点>

1 施設の利用状況

- ・ 預託推進員を配置し、預託頭数確保に努力している。
- ・ 新規に利用農家 5 戸を得たこと。
- ・ 今ある施設をフルに活用し、各ステージ（牛）ごとの頭数及び面積が確保されている。
- ・ 受胎率向上に努めており、農家としてはとてもありがたい。出産後の経過も良好である。

2 公の施設としての適切な運営

- ・ 堆肥の管理等がしっかりされているため、ハエの発生も少なく牛へのストレスも少ない。

3 収支計画及び実績

- ・ 厳しい収支状況の中、経費節減、関係各所とのコミュニケーションなどできる限りの努力を行っている。

4 利用料金の設定

- ・ 利用料金を毎年見直してきている。

5 管理経費縮減の取組

- ・ 管理経費の縮減に努力している。
- ・ 予算執行において管理費低減の取り組みを行っている。
- ・ 場内の鹿柵補修等を職員で対応している。
- ・ おが粉や乾草を安価なものに代替し、経費削減に取り組んでいる。

6 職員の人員配置、職員教育の状況

- ・ 1 名の職員退職後、素早く新たに 1 名採用したこと。
- ・ 労働安全を第一に考え、職員は労働により資格取得なども行っている。
- ・ 職員の各種免許取得支援等総合的にスキルアップに努めていると感じられる。

7 危機管理体制の構築

- ・ 常に注意喚起をしていること。
- ・ 職員に必要な講習を受けさせていること。
- ・ 事故防止のための対策が相当程度取られている。

8 育成牛の管理状況

- ・ 血液検査、体重測定など家畜の飼育状況を科学的に見守っていること。
- ・ 各ステージごとに区分されているため、よく管理されている。
- ・ 全ての牛が体重測定できるよう整備されている。

- 9 草地の維持管理状況
 - ・ 今後は放牧地の管理を充実させる意向があること。
 - ・ コンサルティングの先生のもと適切な管理がされていること。
- 10 施設等の維持管理状況
 - ・ 適切なメンテナンスのもと安全な管理がされている。
 - ・ 機械類のメンテナンスや修繕が行われている。
- 11 地域社会との協調及び県の事業、試験研究に対する協力
 - ・ 県畜産技術研究所との技術協力がなされ、特に受精卵移植等は今後も期待される。
- 12 畜産農家の利便性向上の取組
 - ・ 農家の牛の搬入、搬出に便宜を図っていること。
- 13 畜産農家の視点に立った業務の改善や新たな事業展開
 - ・ 農家からの要求を常に把握しようとしていること。
 - ・ 人工授精に使用される凍結精液などを農家が選択できること。
- 14 要改善事項に対する改善状況
 - ・ 年々改善に取り組んでいる。
 - ・ 前回の要改善事項に対して適切に対応した。
 - ・ 改善事項について対応が出来ている。

<改善すべき点と助言事項>

- 1 施設の利用状況
 - ・ 預託頭数が多いと収入は増えるが、支出も増えるため総合的な判断が必要である。預かった牛が健康に育つことを基本目標にして、経営収支、施設、草地、労働力などを勘案した適正頭数であって欲しい。
 - ・ 今回の評価委員会でも、現場を担う職員が、預託牛個々の育成状況を把握し、今回出席された預託農家の預かっている牛の状態を自信を持って説明されていた。このような対応が牧場の評判向上、ひいては今後の預託頭数確保にとっても重要で有効と思われた。
 - ・ 農家ごとに経営方針があると思うが、預託の良さをより多くの農家が理解していければと思う。
- 3 収支計画および実績
 - ・ 厳しい状況だと思うが、引き続きこれまでと同様の対応を実施して欲しい。
- 4 利用料金の設定
 - ・ 収支状況、同業他社の状況などから随時検討を続けて欲しい。
 - ・ 利用料金の削減は重要だが、相場にあった考えが必要である。
- 5 管理費縮減の取組
 - ・ 輸入牧草の仕入れ方法等、経費削減と子牛の健康維持のバランスを配慮する余地がある。
- 6 職員の人員配置、職員教育の状況

- ・各職員の仕事の実態、分担がどうなっているか、各作業に何人が対応しているか、労働時間がどうなっているかなどの実態を整理する必要がある。職員に無理がかかっていることを期待する。
 - ・責任のある仕事が多く、職員の業務がオーバーワークになっていないか。
- 8 育成牛の管理状況
- ・飼育環境の整備が大前提である。
 - ・治療に経費をかけるより、牛の飼育環境を改善することの方が牛の健康維持に役立つとともに、アニマルウェルフェアの点でも優れる。
 - ・経費削減がいわれる中であるが、一時的に経費がかかる飼育環境改善がゆくゆくは経費削減になる。
- 9 草地の維持管理状況
- ・適草種選定のための試験ほ場はどのような管理がされているのか、選定結果を踏まえて関係機関とも連携し、計画的に活用する必要がある。
- 10 施設等の維持管理状況
- ・概ね適切に管理されているが一部の施設に若干の課題が感じられた。
 - ・設備の維持管理のために注力されていると感じられたが、大切な設備については長く維持管理するため、更なる工夫を検討して欲しい。
 - ・運搬車の稼働日数が多い。
 - ・獣害対策を継続的に行う必要がある。
- 12 畜産農家の利便性向上の取組
- ・今後定期的に預託農家にアンケートをとることも有効だと思われる。
- 13 畜産農家の視点に立った業務の改善や新たな事業展開
- ・農家からの要求・意見、それに対する回答を当委員会で紹介して欲しい。また広報などでも紹介されたいと思う。
 - ・すぐには難しいと思われるが、少しずつでも天城の草資源を有効活用した牛の飼養に向けて改善を進めて欲しい。
 - ・子牛の入牧月齢が地域により異なる。子牛の健康維持の視点から、入牧月齢を検討することも必要である。

(8)要改善事項

評価の結果、今年度の要改善事項は以下の項目となった。

○育成牛の管理状況及び施設の維持管理状況

- ・長期的な目線に立った設備環境の整備がされることを期待する。

○現状を踏まえた今後の牧場運営の方向性

- ・預託に際する規定の統一と経営管理状況を加味した目標頭数の適切化の実現を期待する。